



認定 NPO 法人 **ぱれっと**

<2014 年度 資料>

～目次～

- | | |
|----------------------|-----|
| ・ 総合パンフレット | — |
| ・ 認定 NPO 法人ぱれっと 全体概要 | P 2 |
| ・ 認定 NPO 法人ぱれっとの組織図 | P 3 |
| ・ たまり場ぱれっと概要 | P 4 |
| ・ おかし屋ぱれっと概要 | P 6 |
| ・ えびす・ぱれっとホーム概要 | P 7 |
| ・ ぱれっとの家 いこっと概要 | P 8 |
| ・ その他 | |

ぱれっとつうしん

添付資料

いこっと掲載記事

会員申し込みのご案内

ぱれっとは就労・暮らし・余暇などの生活場面において障がいのある人たちが直面する問題の解決を通して、すべての人々が当たり前に暮らせる社会の実現に寄与することを目的とします。

認定 NPO 法人ぱれっとの概要

●活動理念

ぱれっとは、就労・暮らし・余暇などの生活場面において障がいのある人たちが直面する問題の解決を通して、すべての人たちが当たり前に暮らせる社会の実現に寄与する。

●事業内容

【創立】： 1983 年 7 月 10 日

【創立の経緯】： 渋谷区教育委員会主催「えびす青年教室」(知的障がい者の社会教育の場)のボランティア有志が、障がい者の人間関係や生活圏の拡大を目ざして創立。絵画の道具パレットの上で様々な色を混ぜ合わせて新しい色を創り出すように、色を人に置き換えて色々な人た

事業名	開設	事業内容
◆たまり場ぱれっと	1983～	誰でも自由に集い新しい仲間と可能性を見つける余暇活動の場
◆おかし屋ぱれっと ◆工房ぱれっと	1985～ 2013～	クッキー・ケーキ・手作り製品の製造・販売を通して社会参加と自立を目ざす福祉作業所(就労継続支援 B 型)
◆スリランカ料理 & BEER Palette	1991～ 2012.12 閉店	障がい者・健常者・外国人が融合して最高の味とサービスを提供する株式会社ぱれっと
◆えびす・ぱれっと ホーム	1993～	知的障がい者が自立した生活を目指し地域の中で暮らす家【ケアホーム、緊急一時保護事業】
◆ぱれっと インターナショナル・ジャパン	1998～	国際交流・国際協力・国際支援活動の場 【Palette (スリランカぱれっと)】⇒クッキーの製造を通してスリランカの障がい者が働く就労の場 (1999 年～2009 年 8 月閉鎖)⇒2010 年より大手の製菓会社が、NPO のクッキー工房を設立。Palette のスタッフ及び通所員は、立ち上げメンバーとして雇用。
◆ぱれっとの家 いこっと	2010～	障がいと健常者が共に暮らす家。良い人間関係の中で自立して地域に暮らす住まい方の選択肢の一つ

ちが「ぱれっと」で出会い、交流することで新しい可能性を生み出すことに挑戦。

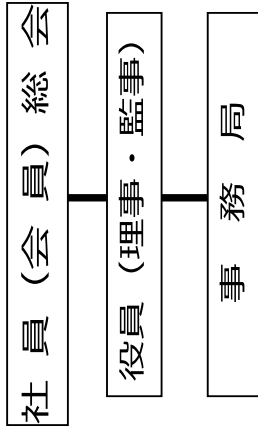
●組織概要

- 理事長：相馬 宏昭 ➤事務局長：南山 達郎
- 理事 14 名・監事 1 名・スタッフ 13 名・会員数 426 件(2014.3.31 現在 個人、団体含む)
- 法人認証年月日：2002 年 3 月 25 日 ➤活動分野：福祉の増進を図る活動/国際協力の活動/環境保全を図る活動 ➤財政規模：109,802,654 円 (2013 年度の実績による収入)
- ホームページアドレス：http://www.npo-palette.or.jp ➤E-mail：palette@npo-palette.or.jp
- 住 所：〒150-0011 東京都渋谷区東 3-19-9 恵比寿イーストビル 101
- 電話/FAX 番号：03-5766-7302 / 03-3409-3790

●認定 NPO 法人取得について

ぱれっとは 2013 年 7 月 10 日、東京都より「認定 NPO 法人」としての認定を受けました。当団体への 2000 円以上のご寄付は、**税金の優遇対象となります (企業の場合は特別損金計上)**。詳しくは認定 NPO 法人ぱれっと事務局 (03-5766-7302) にお問い合わせ下さい。

【認定 NPO 法人ぱれっとの組織と事業を支える人たち】



▶会計データ入力ボランティア

ぱれっと親の会

広める

目的達成のための
広報・啓発事業

【つうしん発行】

【ホームペー ジ作成】

【各種イベント企画実行】

▶つうしん印刷・発送ボランティア

▶つうしん編集ボランティア

▶イベントボランティア

▶運営ボランティア

▶開放日ボランティア

▶各行事実行委員

▶クラブ担当者

あそぶ

余暇活動を障がいのある
人たちと共に行う
余暇活動支援事業

【たまり場ぱれっと】

▶運営ボランティア

はたらく

障がいのある人たちの
就労支援事業
(就労継続支援 B 型)

【おかし屋ぱれっと】

【工房ぱれっと】

▶弁当作りボランティア

くらす

障がいのある人たちの
地域生活支援事業

【えびす・

ぱれっとホーム】
(グループホーム

緊急一時保護事業)

▶料理ボランティア

▶代替アルバイト

国を超える

国際交流・研修・
協力事業

【ぱれっと
インターナショナル
・ジャパン】

▶いこつとさぽっとの会
(運営委員会)

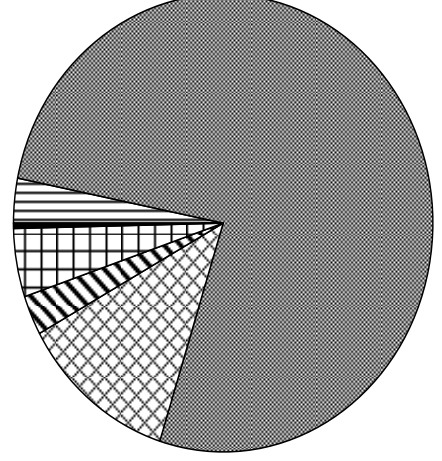
【ぱれっとの各種会議】

- ◆理事会（四半期）
- ◆事務局会議（毎月）
- ◆つうしん編集会議（毎月）
- ◆各セクション会議（随時）
- ◆ぱれっと親の会（毎月）

財政状況

(2013年度の実績による)

- 会費 (3,467千円 3.2%)
- 事業収益 (84,256千円 76.7%)
- ☒ 補助金 (13,290千円 12.1%)
- ☑ 助成金 (3,073千円 2.8%)
- 寄付金 (5,302千円 4.8%)
- その他 (413千円 0.4%)



▶受賞歴 2003.12 第4回ヤマト福祉財団賞
2006.10 第10回米賀一雄記念賞
2011.11 第2回(社団)日本経営士会
「ビジネス・イノベーション・アワード」優秀賞
2012.12 第10回読売福祉文化賞
2013.10 渋谷区政功労者表彰

▶出版：2005.7 「福祉に、発想の転換を！～NPO 法人ぱれっとの挑戦～」(ぶどう社)
2012.1 「あなたとわたし わたしとあなた～知的障害者からのメッセージ～」(小学館)

たまり場ぱれっと (1983 年 7 月設立)

【歴 史】 たまり場ぱれっとは、えびす青年教室（渋谷区教育委員会実施）に集う障がいのある青年達の、人間関係や生活圏の狭さに疑問を感じたボランティア有志が「日常的に安心して集える場を地域につくろう」と呼びかけ、1983年に誕生しました。開所当初は水、土、日の週3回の開放日を、ボランティアが当番制で支えていましたが、参加者の固定化により1996年に一時閉鎖をし、コンセプトやニーズを見直し、利用者のニーズや時代の変化と共にスタイルを変更して再開しました。現在は月1回の開放日と、各種クラブ活動を原則として、様々な行事の企画運営をしています。色々な人や個性が光る場、参加者が自主的に主体的に活動を創造できる場を目指しています。

【活動日時】 開放日：毎月1回日曜日に開催 10：00～16：00
クラブ活動：平日夜、または土日を利用して随時開催

【活動内容】 ●たまり場ぱれっとの情報紙「Let's Go!」とホームページで情報発信
●開放日毎月1回（学生・社会人の運営ボランティアが企画実行。毎月40人程が参加）
●クラブ活動（スポーツファンクラブ、ティーボールクラブ、外国語を学ぶクラブなど、障がいのある参加者自らが中心に企画実行）
●年間行事（雪あそび合宿2月、プチ・バカンス8月等）
●ボランティア研修（講演会、勉強会、交流会等）

【スタッフ】 常勤1名、運営ボランティア7～8名（社会人・学生）

【利用者数】 150～180名（年間）（内、ボランティア数：100人）
※基本的には、18歳以上の方を対象としています。
※ボランティア、参加者共に、随時募集しています。

【運営資金】 プログラムにかかる経費は、「参加費」という形でいただき、ボランティア、障がいのある参加者含め、参加者全員で一律同額をシェアをしています。ただし、スタッフ人件費を含め、「運営に関わる経費」は主にぱれっと会員からの会費収入と寄付金（公的な資金援助はありません）

【運営体制】 「運営ボランティア」と呼ばれる人たちが企画の中心にあたっています。運営ボランティアは様々な企画の運営全般に関わり活動をリードします。毎週平日の夜に集まり、イベント運営会議を行なっています。その他、開放日やクラブ活動の当日に参加して活動を盛り上げる一般ボランティア、宿泊等の大きな行事の企画運営に関わる実行委員ボランティアが活動をサポートし、参加者の声を形にしています。また、職員はぱれっとの理念をもとに、たまり場を利用する全ての人たちが安全に安心して活動に参加できるよう、活動全体を把握しながら助言やアドバイスをしています。

○【運営ボランティアのイベント運営会議】

- ・ 毎週木曜日19：30～21：30 ・ 場所：恵比寿
- ・ 企画内容：毎月行われる各種イベント、クラブ活動（ダンス教室、スポーツクラブなど）、年2回の宿泊行事、勉強会や交流会など

【連絡先】 たまり場ぱれっと 職員 左右木（そうき） 住 所：東京都渋谷区東3-19-9 恵比寿イーストビル101 TEL：03-5766-7304 FAX：03-3409-3790 Eメール：tamariba@npo-palette.or.jp / URL：http://www.npo-palette.or.jp/tamariba
--



主な活動内容と活動日

	日程	内容
開放日	毎月 1 回日曜日開催 10:00～16:00	お花見、ラーメンツアー、料理教室、各種パーティー、カラオケ、遊園地、散歩、ゲームやおしゃべりなど内容多彩。
クラブ活動	通年	スポーツ観戦や様々なスポーツ体験を楽しむクラブやティーボールクラブ、文化部、外国語を学ぶクラス、パソコン教室など、ヒップホップダンス教室、ヨガ教室など、やりたい人達を中心に企画運営しています。もちろんどなたでも参加できます。
宿泊行事		
プチバカンス	8 月もしくは 9 月	毎年大人気のプログラム、一晩一緒に過ごせば、もう兄弟同然!?
えびす雪あそび合宿	2 月	バス 2 台 80 名前後で開催中！

ボランティア募集 ～ボランティアの役割と職員の役割

障がいのある人に対して何かをしてあげるのではなくて、良い関係作りを通して互いに学びあいながら、苦手なところをフォローする、そんなボランティアを求めています。

充実した余暇活動の企画立てや余暇プログラムと一緒に過ごす中で、様々な気づきや発見があります。それは障がいそのものについてかもしれないし、自分自身についての発見かもしれません。余暇プログラムを通して障がいのある方と仲間作りをすること、関係を作りつなげることがたまり場ボランティアの役割といえるでしょう。

職員はぱれっとの理念をもとに、たまり場を利用する全ての人たちが安全に安心して活動に参加できるよう、活動全体を把握しながら助言やアドバイスをしています。

『活動への関わりは 3 種類』

自分の時間やかかわり方を自分で決めて活動に参加していただきます。

運営 ボランティア	活動をより充実させるために、『たまり場ぱれっと』の運営全般に関わりそれぞれのセンスで活動をリードする
一般 ボランティア	開放日やクラブ活動の当日に参加して活動を盛り上げる
実行委員 ボランティア	宿泊等の大きな行事の企画運営に関わる

また、法人全体でのイベントも随時行なっています。毎年 1 回、100 名以上のボランティアとともに開催する資金調達の大きなイベント『ぱれっと福祉バザー(10 月中旬)』をはじめ、各種チャリティイベントなどがあり、随時ボランティア協力の情報を流しています。

『活動前に行なうオリエンテーション』

納得して活動に入っていただくために、ぱれっとの見学を兼ねた事前オリエンテーションを行ないます。写真を見ながらの活動紹介、注意事項、緊急時の対応など、一つ一つ確認していきます。基本的には木曜日の PM6 時～7 時オリエンテーション。7 時半からはたまり場運営会議に参加してもらいます。(木曜以外は日程調整。要相談)

福祉作業所おかし屋ぱれっと / 工房ぱれっと

(1985 年 4 月開所)

(2013 年 4 月開所)

施設形態：就労継続支援 B 型（2013 年 4 月移行）

〒150-0011 渋谷区東 3-19-9 恵比寿イーストビル 101

Tel&Fax 03-3409-3774 E-mail okashiya@npo-palette.or.jp <http://www.okashiya-palette.or.jp>

■通所員の状況

○人数：16 名

10 代 2 名、20 代 5 名、30 代 4 名、40 代 4 名、50 代 1 名／男性 5 名、女性 11 名
（おかし屋ぱれっと 12 名、工房ぱれっと 4 名）

○ 採用条件：愛の手帳を所持、原則として自力通所ができ身辺自立が可能であること
（トイレ・食事・衛生管理）

■スタッフ

常勤職員 4 名、アルバイト 1 名、ボランティア 6 名

（サービス管理責任者 1 名、所長 1 名、工賃向上計画担当スタッフ非常勤 1 名）

■作業種目

おかし屋ぱれっと ○クッキー・ケーキ・焼きドーナッツ・グリッシーニ・スコーン

○軽作業（クッキーパッキング、包装、箱折、乾燥剤入れその他）

工房ぱれっと ○髪留め・ぬいぐるみ・雑貨等縫製品

○ お弁当作り（月 2 回水曜日に通所員と職員の昼食をボランティアとともに作る）

■労働条件

勤務時間：月～金曜日 おかし屋ぱれっと 9：00～16：30

工房ぱれっと 9：30～15：30

夏期・冬期休暇、賞与・退職金あり

■作業工賃

時給計算 利用者月平均工賃（月給 43,800 円 賞与含む）

■作業所の特徴

○自主製品を作り、製造から販売まで一貫した仕事

○通所員にとって作業工程が理解しやすいレシピの工夫

○企業と同様に利益を追求し、従業員の労働条件を整備

○企業へも就労できるように援助 ＊企業就労実績：スターバックス、渋谷郵便局

○企業とのつながりをつくり訪問販売

○通所員一人一人に合った仕事の選択

○ボランティアによる体操教室

■組織運営

○売上 年間

20,487,502 円(平成 25 年度)

○平成 25 年度 渋谷区補助金 6,631,225 円 訓練等給付費 23,458,705 円

○賃借料：13,262,328/年間

○会議

・ぱれっと親の会（毎月第 1 木曜）、各セクション事務局員会議（月 1 回）

・おかし屋職員会議（週 1 回）

・通所員個人面談・父母面談（年 1 回）

えびす・ぱれっとホーム

(1993 年 8 月開所)

1. 基本コンセプト

- ・ 知的障がい者を対象としたグループホームと渋谷区在住者を対象としたショートステイの運営
- ・ 暮らしの場は安らぎの場であることを基本理念に、共同生活での様々な経験を通し、地域の中でのあたり前の暮らしを目指す

2. 概要

○所在地：〒150-0011 東京都渋谷区東 3 - 1 4 - 5

TEL&FAX 03 - 3407 - 6070

E-mail ep-home@npo-palette.or.jp Web <http://www.npo-palette.or.jp>

○事業内容

＜共同生活援助事業（グループホーム 指定障害福祉サービス事業）＞ 利用者：定員 6 名
原則として渋谷区に住所を有す知的障がい者、就労者（見込み者含む）

身辺の処理ができ、社会的自立に意欲がある方

利用料：55,000 円／月（内訳：家賃 20,000 円、食費 30,000 円、水光熱費 5,000 円）

特定障害者特別給付費 10,000 円家賃補助があり、本人負担は 45,000 円

＜緊急一時保護委託事業(ショートステイ 渋谷区委託事業)＞：利用者：定員 2 名

渋谷区在住の知的障がい児・者 6 歳以上

利用料：なし 食費 1 食 500 円 おやつなどは実費

* 2 事業とも、利用希望者は渋谷区障害者福祉課にて利用申請登録が必要です

○スタッフ：専従職員 5 名（施設長：菅原睦子 サービス管理責任者：姫崎由美）

代替アルバイト 15 名登録 料理ボランティア 14 名登録

3. 組織運営

41, 240, 667 円／年（2013 年度実績）

○介護給付費他	14, 649, 434 円（ケアホーム）
○処遇改善助成金	269, 467 円（ケアホーム）
○渋谷区補助金	6, 498, 113 円（ケアホーム）
○渋谷区委託金	16, 970, 825 円（緊急一時保護事業他）
○利用者負担金収入	2, 528, 723 円（ケアホーム本人利用料）
○その他	324, 105 円（助成金、寄付金等）

※ケアホームは、渋谷区との取り決めで、入居者負担金が開所時と変わらない金額で運営できるように、介護給付費他と渋谷区補助金により運営する。

※2014 年 4 月、制度改革によりケアホームとグループホームが「グループホーム」へと一元化された

4. 変遷

1993 年 1 月 ぱれっとホーム(仮称)プロジェクト会議設立

1993 年 8 月 えびす・ぱれっとホーム開所

2009 年 4 月 障害者自立支援法 共同生活介護（ケアホーム）の指定事業者となる

2014 年 4 月 障害者総合支援法の制度改革により、グループホームへ一元化

ぱれっとの家 いこっと

(2010年4月設立)

1. ミッション

～障がいのある人もない人も安心して暮らせる家をつくる～

- ①障がいのある人も、自分の力で暮らせる家です
- ②一人ひとりが個室を持ち、共用のキッチンとリビングがあります
- ③入居者同士のコミュニケーションを大切に、自分たちで住まい方を作っていく家です

2. 概要

- ◆住 所：東京都渋谷区東3丁目（「恵比寿」駅より徒歩約8分）<http://ikotto.npo-palette.or.jp/>
- ◆建物概要：木造（2×4工法）、地上3階建て、居室数：8室
- ◆建築費：約3700万円（土地は無償で提供。建物はオーナーが建て、ぱれっととサブリース契約を結んでいる）
- ◆面積：敷地面積：約106㎡、延床面積：約169㎡
- ◆居室広さ：各室約6畳（収納スペースを除く）
※浴室・シャワー・トイレ・洗面・洗濯機は共用。
※1階に約19畳の共用キッチン・リビング・ダイニング（通称“いこ間”）あり
- ◆家賃等：家賃6万2千円～6万6千円、敷金2ヶ月、礼金なし
※水光熱費、生活備品は入居者で均等割り
- ◆入居状況：平成26年4月現在・・・8名（障がい者2名、健常者6名 30代～50代）
- ◆入居条件：原則就労していて日常生活を自立して行える方。いこっとの理念に賛同する方。年齢不問
- ◆サブリース契約：2010年4月より、サブリース契約をオーナーと結んでいる。空室保証あり。

3. 運営体制

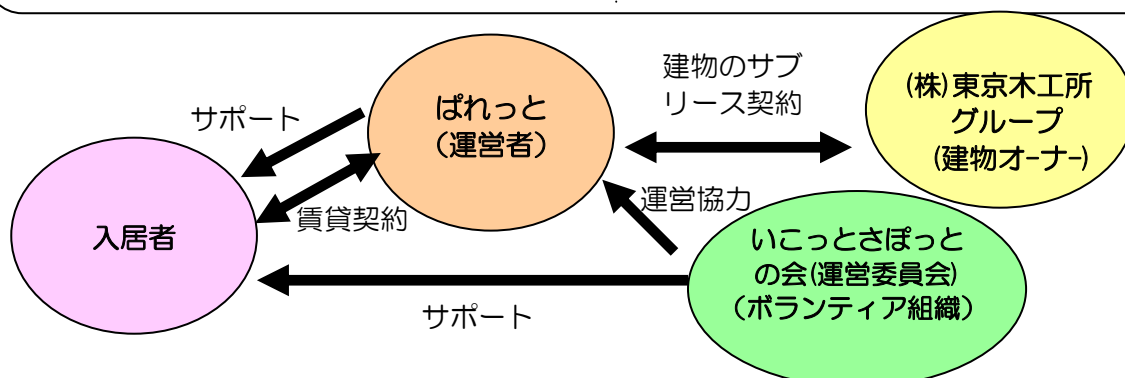
- ◆(株)東京木工所グループとぱれっとで建物のサブリース契約を結び、ぱれっとと入居者で賃貸契約を結びます
- ◆計画段階の実行委員会・ワークショップに替わり、運営段階のために新たなボランティア組織として“いこっとさぼっとの会(運営委員会)”を設け、ぱれっとに協力し、運営をサポートします

【ぱれっとスタッフの業務】

- ①「いこっと」の自主管理の運営補助、支援業務
- ②居住者の相談窓口
- ③居住者退去時の検査立会
- ④家賃の収納管理
- ⑤鍵の保管
- ⑥「いこっと」の広報宣伝活動
- ⑦契約書作成業務

【いこっとさぼっとの会(運営委員会)の目的】

- ＜目的＞
 - ①ぱれっとと協力し、「いこっと」での暮らしをサポートする
 - ②「いこっと」の意義を社会に発信する
- ＜役割＞
 - ①入居者ミーティングへ必要に応じて参加、その他サポート（事業推進、管理）
 - ②広報、講演、事業に関する相談

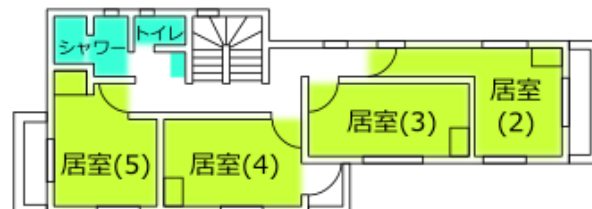




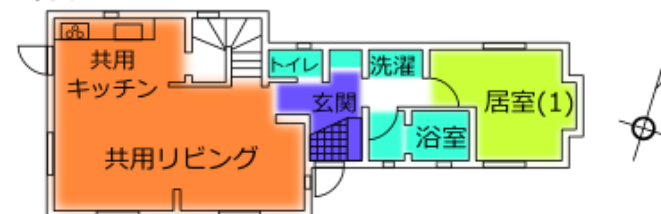
3階



2階



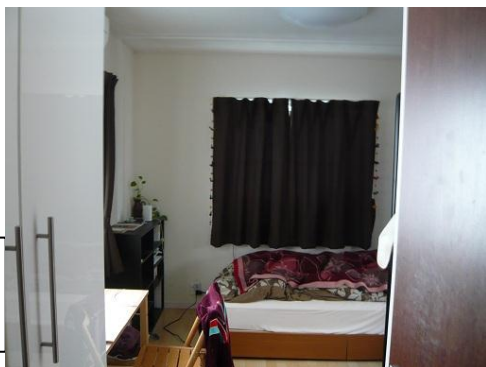
1階



リビング



居室



料理教室

支え合い 共生の家

障害ある人とない人と

スタッフなしで自立

軽度の知的障害のある人と障害のない人が一緒に暮らすことを条件にした「家」が、東京の真ん中に完成した。世話役のスタッフを置かず、住民の支え合いで自立を目指す珍しい試み。障害者の住まいの選択肢を増やし、多様な人がふつうに住む社会を目指したNPO「ばれっと」(東京都渋谷区)の宿願に、地元企業が一等地を提供した。

(菅田和華子)

渋谷に完成



入居が始まった「いこっと」。入居者たちは新生活に期待を膨らませる。東京都渋谷区東3丁目、菅田和華子

家の名は「ばれっとの家いこっと」。渋谷区の東部、恵比寿駅から徒歩8分の場所にある。3階建てで、6畳程度の居室が八つ。台所や風呂などの水回りと居間、ダイニングは共有だ。洗濯機や冷蔵庫も備え付けをみんなで使う。今月中旬から知的障害者

2人と健常者4人が入居を始めた。ばれっとの活動に参加する障害者やボランティア、公募に応じた人たちが、知的障害のある人向けの共同生活の場として、これまでグループホームやケアホームがあった。だが、「いこっと」はこれらとは違い、家事などを助けるスタッフ

はいない。障害者も自分のことは自分でやる。ただし、突然の訪問者や電話対応など、苦手な状況に面したときは遠慮せず助けを求め、健常者も応えるのがルール。プライバシーを保ちながら生活の一部を共有し、補い合うコレクティブハウス(共生型集合住宅)の理念を参考に、障害

知的障害者の共同生活
ケアホームは、主に夜間に入浴、はいせつや食事などの介護をするスタッフを置く。グループホームも日常生活の支援などを行うスタッフを置くが、ケアホームより障害の程度が軽い人を想定した施設。「いこっと」が参考にした

コレクティブハウスは、住人個々の独立した住戸のほかに共有のキッチンや居間、庭なども持つ集合住宅を指す。障害者の自立支援と直接の関係はない。日本では阪神大震災の災害復興住宅として1997年に初めて公営で建設された。高齢者や一人親世帯が安心して住める環境として、研究が進んでいる。

者の自立を支える環境を目指すしている。

健常者の会社員男性(26)は、ばれっとが設けた知的障害者と健常者の余暇サークルに参加した縁で入居した。

「新しいことが好き。留學生の友人が暮らすゲストハウスに遊びに行った時、一体感や、にぎやかさがうらやましかった」と気がいいが、いざ暮らしはじめてみると、平日は健常者の帰宅が遅い。夕食の用意に戸惑った障害者からの電話で、ばれっとのスタッフが買い出しに付き添ったことがあった。「慣れるために、最初だけ。今後は自分でしてもらう」

最初の週末となった17日に、住人たちは初めて一緒に夕食を囲んだ。友人たちも招き、焼きそばを作ったという。

しかし、「少しの支えがあれば地域で自立する素質があるのに、親や施設職員が世話を焼きすぎて、自立の機会を奪っているケースがある」という。「施設に障害者だけ固まっている社会は不自然。いろいろな人がかわりあうことで生まれる活力は、地域再生にもつながる」

費用の壁 企業が一役

いこっとの敷地には、昨秋まで建築資材製造の「東京木工所」(本社・渋谷区)の社員寮があった。ばれっとの構想を聞いた同社が、寮を取り壊して新築し、大家になった。家賃は採算ギリギリの月7万円前後の設定で、一部は管理費としてばれっとに渡す。渋谷区は、低所得の障害

者が入居した場合に最高2万円を家賃補助するなど、独自の支援策を決めた。谷口理事長は、「地価の高い都市にハウスをつくるには、企業の協力を得るのが大切。協働のノウハウも自治体やほかのNPOに伝えて全国に広めたい」と話している。

う。次の週末には、掃除のルールや足りないと感じたものを全員で話し合う「入居者ミーティング」の時間を持つことにしている。

厚生労働省の2005年の調査では、地域で暮らし知的障害者の23%が軽度だ。ばれっとの谷口奈保子理事長によると、多くは親と住み、身寄りがなくなると、グループホームやケアホームに移る。

しかし、「少しの支えがあれば地域で自立する素質があるのに、親や施設職員が世話を焼きすぎて、自立の機会を奪っているケースがある」という。「施設に障害者だけ固まっている社会は不自然。いろいろな人がかわりあうことで生まれる活力は、地域再生にもつながる」